

特集 オープンキャンパス やっぱり大学はおもしろい!

■ 各学部のキャンパスライフ

人文学部

七夕祭!!!



小橋 綾子
人文学部 3年
(言語文化学科)

“はっぴ” がユニフォーム

「山口大学といえば?」「七夕祭!」私は胸を張ってそう答えます。山大のキャンパスで「祭」の“はっぴ”を見かけたことはありませんか? 初めて見た人はきっとビックリしたことでしょう。私もそうでした。まさか自分も仲間入りするなんて思ってもみませんでしたけど。

恋のお手伝い

山大には、吉田寮(男子寮)と榎野寮(女子寮)があり、七夕祭はそんな寮生主催のお祭りです。毎年7月に開催され、当日はサークルなどが店を出したり、ステージで様々な企画が行われたり

と大変盛り上がります。山大生はもちろん、一般のお客さんも大勢いらっしゃいます。そして熱気溢れる昼間の祭りから一変、日が落ちると提灯に灯りがともされ、とても幻想的な雰囲気になります。女の子の中には浴衣を着て楽しみたいという人も多いようです。また、七夕祭は山大生の恋のお手伝いもしているようで・・・素敵なエピソードが盛り沢山です。そんな七夕祭の実行委員会の大半を占めるのは入学したばかりの1年生です。1年生をまとめ、実際に運営していくのが2年生。そして総勢百名ほどにもなる実行委員をとり仕切り、まとめ上げるのが3年生です。

スタッフとして携わってみて

私は2年間、七夕祭実行委員を

務めました。もともとイベントの裏方のような仕事は好きなのですが、予算など金銭的なことや業者さんと協力することなど、こんなにも本格的に一から準備していくのは初めてでした。ですから、思うように行かず悩むこともずいぶんありましたし、仲間と意見が衝突することもしばしばでした。今思うと、あの時はとにかく一所懸命で必死だったと思います。当日は灯りの中で少しずつ終わっていく祭りを眺めながら、言葉には言い表せない充実感と達成感で涙が止まりませんでした。こんな貴重な体験をさせてくれた七夕祭に感謝しています。心から誇りに思います。今年は後輩たちが作り上げた祭りを思い切り楽しむつもりです。私にとって“はっぴ”を着ずに参加する初めての七夕祭です。



山口大学での生活



源内 良美

人文学部 4年
(言語文化学科)

山口大学に入ったきっかけ

私は高校3年生の夏休み、山口大学のオープンキャンパスに来てからというもの、山口という土地

の豊かな自然と、学内の環境にすっかり魅せられてしまいました。ですから今はこうして在学し、落ち着いた環境の中で学び、生活しています。

生活について

山口大学での具体的な生活についてですが、私はもう4年生なので講義数も少なく、近頃はほとんど昼前に部屋を出る事が多いです。それでも1、2年生の頃には朝早くから講義に出席し、空きコマは所属しているサークルの部室で友人たちと過ごし、そして夕方になるまでずっと学内に居るという

生活をしていました。

所属コースについて

2年生から配属された独仏語文化論コースでは、主にフランス文学について学んでいます。一緒に勉強する仲間は少ないのですが、その分指導して下さる先生方との距離も近くなるため、沢山のアドバイスをいただく事が出来ます。

また、研究室は人文学部棟の六階にあり移動は大変ですが、窓からの見晴らしはとても良く、静かで落ち着いた環境にあるので、集中して物事を考えるのに適していると感じています。



好きこそ物の上手なれ



濱村 一成
人文科学研究科

研究テーマ

皆さんは『竪穴住居跡』という言葉に聞き覚えはありませんか？日本史でその箇所に蛍光ペンを引いた記憶はありませんか？実は私が大学院で研究しているテーマは、昔あなたが蛍光ペンをひいたそれなのです。

私は考古学を専攻しています。大学院での研究テーマは「日本先史時代の集落」で、特に縄文時代

における竪穴住居跡の平面形態の地域性について研究しています。単に「竪穴住居跡」といっても、その形態は地域や時期によってさまざまな形があり、しかも各々一定の決まりごと（設計仕様）に基づいて作られていることが近年の研究によって徐々に解明されつつあります。今から4千～3千年前の日本に住んでいた人々が、家を建てるのにきちんと約束事を決めていたなんて凄い事だと思いませんか？学部3年の時にこのことを知って以来、私は住居跡の虜になってしまいました。

院生生活

大学院1年目の去年はいろいろと忙しい一年でした。今年は修士論文作成に向けた演習を受け、他には3年生対象の考古学実習のT・A（講義や実習などの補助をする仕事）をするのが主です。今

年の3年生は有り余るくらい元気があり、とても活動的です。授業のない日の昼頃から夕方研究室で勉強します。また、土器や石器の図面を描くこともあります。下宿に帰ったあとは、ほとんどを自分の研究テーマに関する論文・資料を整理・分析する時間にあてます。私は気になることがあると寝られない性格で、その日の作業を終えて就寝するのは毎日朝4時～5時頃になります。

飽くことのない事を見つける

最近は朝起きて夜寝るまでずっと竪穴住居跡の事を考えているような気がします。「研究をする」というのはかなりきつい事なのですが、自分が興味を持った事を研究しているので飽きる事はありません。みなさんにも「自分はこの事に関しては、いくら勉強しても飽きない。」というものがあれば、それを研究テーマとしてみてはいかがでしょうか？きつとうまくいくはずですよ。



考古学実習風景

大学生活は毎日が楽しい!

吉岡 彩花

人文学部 4年
(人文社会学科)

学生生活について

私は山口大学に入って4年目になります。実家から通っているのので、一人暮らしの友人からしばしば、「面倒な家事全般をやらないでいいからいいなあ。」と言われますが、我が家は「働かざるもの食うべからず」の方針のため、家事は一人暮らしの友人同様、生活の一部となっています。

家事をし、学校に行き、アルバイトをし、サークル活動をし、友人とも遊ぶ、といった忙しい生活ですが、楽しむことに貪欲になると、とことん楽しめるのが大学生の特権だと思うので、ハードスケジュールに負けず充実した毎日を送っています。

人文学部というところ

人文学部に属していると、「人文学部って何を勉強する学部なの?」と尋ねられることもしばしばです。その度に「う〜ん」と考え込んでしまうのですが、実際に私の周囲を見回すと、同じ学部であるにも関わらず勉強していることは様々です。社会、政治、考古、歴史、美術、民俗、哲学・・・といった風に、人文学部はひとくくりにはできない学問を学生の興味関心に沿って学んでいる学部といえます。

ですから、人文学部の友人達と自分の専門分野についての話になると、非常に多岐にわたった話が出てくるので、とても楽しい時間になります。

ゼミについて

私は民俗学のゼミに入っていま

す。このゼミは先生方も生徒も仲が良く、コンパを開いたり、放課後に研究室で鍋パーティーをしたりします。今はゼミでオリジナルTシャツを作ろうという話が出ており、コンパの時や、夏休み中に3泊かけて行う民俗調査実習の時に皆で着よう!!と盛り上がっています。出来上がりが楽しみです。

ところで上記の「民俗調査実習」とは、県内のある地域に調査に行き、その地域の方からお話を伺い、それをもとに各自のテーマで報告書に仕上げる、といった授業です。泊りがけで行うため、同級生と仲良くなるばかりか、先生とも連日連夜お酒を飲みながら話ができる、という貴重な体験ができます。また報告書製作の過程では、生きた言葉を自分の力でまとめる、という大変いい経験ができました。



教育学部

大学生活の魅力

福島 翔

教育学部 4年

学校教育教員養成課程
(技術教育コース)

キャンパスライフはドラマでみたようなものばかりだと思ったら大間違いです。講義の受講学生数は相当多いものから、かなり少ないものまでさまざまです。自分の受けた講義は授業を組む上ではかの授業と重なったりして受けられないし、受けられたとしても受講学生数が多くて抽選になって漏れたりすることがあります。授業の最初の段階では担当の先生が何を説明しているのかわからないこともあります。また、サークルなどに入らないと友達もほとんどできないし、夢にまで見ていた

(?) 大学生活とは、程遠いものとなりました。

しかし期待はずれのことばかりではありません。高校までではできなかった授業を自分で全部組むことができます。同じ学部の人同士集まって、先輩から必要な講義やどの講義がおすすめか等を聞いたりできます。慣れてくればバイトなどでもできたりするし、仲のい

い人同士であちこち出かけたり、飲み会などで先輩にご飯をおごってもらったり、先輩や教授に今まではなかった社会の礼儀や人付き合いを学んだり、趣味にお金を費やして遊ぶこともできます。自分は今そんな感じなので今までにない楽しい生活を満喫しています。高校時代に勉強してきた甲斐があったと思います。だから迷っている人がいれば大学に進学することを是非おすすめしたい。



技術教育の卒業論文発表会・大学院修士論文発表会
(平成16年2月19日) 筆者(福島 翔)は、最後列の右から2番目

大学生活



梶本 明信

教育学部 2年

(社会科教育コース)

大学の生活は高校のときとは大きく違うことがたくさんあります。

まず自分でたくさんある講義か

らいくつか選んで受講することになるので、自分の好きな講義を選ぶことができます。それに自分の選んだ講義に間に合うように大学に行けばいいので、昼には帰れたり、昼から行けばいいということもできます。さらに場合によっては、毎週火曜は休みにできたりもします。

だから大学では自由な時間がたくさんできるので、その時間をどのように使うかが重要になります。大学にある図書館などに行って本を読みまくるのもいいし、なにか部活やサークルに入ってさわやかな汗を流したり趣味を深めた

り、また大学からなにか新しいことを始めてみるのもいいかもしれません。ちなみに僕は自由な時間でサークルをやったり、友達と遊んだり、先輩にどこか連れて行ってもらったり、そしてときどき勉強したりしてとても楽しい大学生活を送っています。

とにかく大学では高校と比べてより多くの自由な時間ができるので、その時間をどう過ごすかによって大学生活の楽しさが変わってくると思います。大学に入ったら是非、有意義で楽しい大学生活を送ってください。

大学の上手な活用法

村谷 佳代

山本 優子

教育学部 3年
(人間教育学コース)

私たちは人間教育学コースの3年生です。今回、大学にどんな魅力があるかを考えてみました。

佳代：私は大学に入学後、某デパートの清掃業のバイトを始め、三年間続けています。アルバイトは様々な人と出会え、社会勉強にもなります。次に始めたのが放課後チューターという教育学部特有の取り組みです。放課後の小学校で課題プリントなどの丸付けをしたり、教えたりします。最近では子どもとの関わりを持つ場を

増やしてくれたりして、すごく勉強になります。さらに新たに参加しているのは、学校生活全般に関わる生雲小フレンドシップです。児童と一緒に授業を受け、給食を食べ、休み時間に遊んだりします。児童の成長をじかに目にすることができし、自分の成長もはかれるところが魅力です。

優子：私はあるボランティアサークルに入りました。子ども対象のレクリエーションを作ったり、小学校を訪問して子どもと遊んだり、その他にも様々な活動をしています。このサークルに入っただけで、人と関わる機会がたくさん得られたと思います。その

「人」というのはボランティア活動を通して関わる人はもちろん、サークルにいる仲間が存在するというのも自分の中では大きいです。大学は高校のようなクラスという単位がないので、自分から人間関係を作ろうとする姿勢が必要です。でもその分大学はいろんな考えを持つ人と出会う事のできる場所でもあるから、高校よりも自分の考え方（視野）が広がりやすい場所だと思います。

以上、二人の意見をまとめると、大学を上手に活用するなら、大学でしか出来ない勉強をすることはもちろん大事ですが、たくさんの人と出会える場という利点を生かす意味でも、自分から意欲的に活動する姿勢を持つことが必要だと私たちは思います。



自称・エンターテイナーの1週間

川戸 雄毅

教育学部 3年
(表現情報処理コース)

大学生活

私の所属している学科、俗称：表現情報学科は、コンピュータを駆使した芸術表現を学ぶことを主としています。CG、プログラミング、作曲、そして情報系として情報・離散数学や電子計算機などの講義が開かれます。

私は音楽に興味があり、作曲研究室に所属しようと思っています。また学科だけに留まらず、有志を集って創作系音楽サークルを新設しました。レコーディングやCD製作など、フル回転で活動しています。

……と、ここまでが私の昼・平日の顔です。

大学外生活

授業が終わると、私は自室に戻って作業を行ないます。一般的に見て多趣味の領域にいる私は、作詞・作曲家以外に、イラストレーター、小説家、ゲームプランナーの顔を持っています。夕方～深夜の時間帯はこの作業に没頭しています。典型的なAB型なので飽きっぽい性格ですが、やはり好きなことに対しては集中して出来ます。

そして休日、私はもう1つソフトボールサークルを掛け持ちしています。今年はキャプテンとしてみんなを引っ張っています。元高校球児なのでやはり体を動かすのは好きです。それに大学生になっ

て怠惰な面が多く出がちになるので、気分転換とシェイプアップの意味も含めて打ち込んでいます。

その他

バイトは週3程度コンビニで働いています。社会勉強のためにと選んだのですが、勉強することありまくりです。今までの知らない過ぎたとも言えますけどね。大学生になったら何かしらのバイトをすることをオススメします。

最後に一言

大学生活は良くも悪くも自分次第です。勉強・研究に集中して学会に認められる人もいれば、特に目標もなくただただ歩くだけの人もいます。どちらが良いか悪いかの判断は皆さんに委ねます。

自分の夢と強い意志を持って、大学生活、そしてこれからの人生に臨むことが大切だと思います。

フォーマットされたCD-Rに何を書き込むかは、自分自身で考えてください。



ソフトボールサークルの仲間たちと
山口大学体育会主催のソフトボールマッチで準優勝!



大学指定のノートパソコンとお気に入りのヘッドホン
いつもこれで作曲しています

経済学部

学部紹介

瀧川 香織

経済学部 2年
経済学科

私は現在経営学科に所属しており、今年の経済学部新入学生のために4月8日と9日の2日間にわたり開催されたフレッシュマンセミナーの手伝いをさせてもらいました。フレッシュマンセミナーというものは、入学したばかりの1年生のために、1年生同士の交流を

深めたり、経済学部の先輩と知り合うことで経済学部にも早く慣れてもらう事を目的としたものです。大学に入学しても、自分から話さないと友達が出来ないので、友達を作るよい機会となりました。具体的には1年生の前期で基礎セミナーという授業があり、そのグループでスポーツや山口観光をしたり、レクリエーションなどをしました。私も去年、基礎セミナーの

人とお花見をしました。そのときに打ち解ける事ができました。そして、そのフレッシュマンセミナーで知り合った友人のおかげでとても楽しく生活できました。他にもスポーツ大会のようなものを開催し、賞品獲得という目的のために楽しくゲームをしてもらいました。このフレッシュマンセミナーのスタッフとして、一年生の力になれたことは私にとってとてもいい経験になりました。

サークル紹介

水津 徳貴

経済学部 2年

こんにちは。CPA研究会です。このサークルは経済学部の学生を対象として経済学部の中にある多目的棟というところで活動しています。人数は4年生が3人、3年生が3人、2年生が2人、1年生が11人です。まずサークル名のCPAとは『Certified Public Accountant』の略称で公認会計士を意味します。しかし公認会計士を目指すためのサークルではなく、簿記の資格を取得することを主な活動としています。というのも、経済学部は簿

記の単位が必須単位となっているため経済学部の学生は必ず簿記の勉強をしなければなりません。簿記とは商業高校の人はすでにお分かりだと思いますが、普通高校の人は大学に入って初めて簿記に触れるという人がほとんどだと思います。簿記とはすべてのビジネスの基礎であり、企業の活動や経済の仕組みがよくわかります。また履歴書に書ける資格であり、社会的に広く知られているので、就職のときにも役立ちます。簿記の知識の習得はビジネス社会で活躍する上での大きな武器となります。

そのためにもこのサークルを大いに活用できると思います。またCPA研究会では新入生の人たちには6月に行われる簿記3級検定試験を受けてもらいます。もちろん簿記は初めてといった人たちばかりなので計画的な勉強スケジュールを組み、先輩たちが丁寧にやさしく指導にあたってくれます。また上級の2級、1級の資格を目指したい人も大歓迎です。また簿記の学習だけでなくそのほかの楽しいイベントも盛り沢山なので気軽に入ってきてください。

山口大学経済学部ゼミナール連合協議会の活動紹介

上田 健太郎

経済学部 3年

経済学部には「山口大学経済学部ゼミナール連合協議会」（略

称：ゼミ連）というサークルがあります。名前だけではどのような活動をしているかわからないでしょう。そこで主な活動を紹介します。その主な活動は、

「ソフトボール大会」「ゼミナール討論大会」「卒業記念パーティー」の企画・運営です。

「ソフトボール大会」とは、前期と後期にゼミ対抗で行われるソフトボール大会のことです。これは山口大学経済学部のゼミを活性化するため、ゼミの親睦を

図るため、という目的で、毎年ゼミ連が企画・運営を行っています。スポーツをすることでゼミ内の輪ができ、さらにはゼミを越えた輪が広がります。

次に「ゼミナール討論大会」とは、ゼミで学んだ事をもとに自分たちの意見・主張を討論という形で表現し、対抗ゼミの自分たちとは異なる意見や主張に対してやりとりすることによって、考え方や視野を広げ、その後のゼミ活動に生かしてもらおうと毎年行っているものです。この「ゼミナール討論大会」ですが、今年はその全国規模で行われる“日本学生経済ゼミナール”が山口大学で行われます。その準備・運営を現在ゼミ連が行っています。価値観の異なる他地域の学生と討論を行うことは、視野を広げるという意味でとても有意義なものになると思います。

そして「卒業記念パーティー」ですが、これは毎年卒業される経済学部4年生を、教員の皆様、鳳陽会という経済学部同窓会の方々と送り出すパーティーです。このパーティーの企画・運営を行います。

ゼミ連を一言で言い表せば、“大学版生徒会”といったようなものです。“生徒会”と言ってし

まうと、硬いイメージがしてしまうでしょうが、「遊ぶときは思いっきり遊び、やることはやる」をモットーにゼミ連内でスポーツをするなどして、メンバー間の親睦を深めながらメインとなる活動を楽しんでいます。

なお、全国討論大会のホームページアドレスはこちら

<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~zemiren/>



松下電器就業体験

曹 凱
経済学部 4年
国際経済学科

皆さん、こんにちは。私は山口大学経済学部国際経済学科の4年生で、中国山東省済南市からやって来た留学生です。曹 凱（ソウ ガイ）と申します。今回、皆さんに私の2003年夏休み中に参加した山口松下電器産業就業体験について、お話をさせていただきます。

2003年の夏休みに入る前のある日、ゼミの時間で陳 建平先生（中国経済専門、山口大学NO1、優しい先生）に夏休みの予定を聞かれました。その時、自分は何も具体的な予定がなくて、ただ有意義な夏休みを過ごしたいと言

いました。すると、陳先生の方からインターンシップ（Internship）に参加したらどうだと勧められました。当時インターンシップという言葉が分かりませんでしたので、陳先生にそれは何ですかと聞きました。すると、先生が「簡単に言えば、就業体験のことだ」とおっしゃいました。その後、私はインターンシップについて、調べました。インターンシップとは、仕事の経験をしてみたい人（特に学生）に、短い期間において社員扱いで仕事をしてもらうような会社側から提供される無給就業体験のことです。

インターンシップの制度に参加して、一番大事だと思ったのは、社内でのコミュニケーションです。私が体験させていただいた、

山口松下電器産業の経理部門は、課長を入れて、全部で6人でした。6人の方は本当に自分の個性があって、楽しい雰囲気が溢れるほどの職場で、毎日そこに行くのが楽しみでした。体験の初日に自己紹介をする時に、本当に緊張しました。私みたいな大学生の話に耳を傾けてくれるのでしょうかと心配もしていました。でも、その皆さんは微笑みながら、私の目を見て、私の話を真剣に聞いてくれました。体験の終了日に私は会社でスピーチをしました。その時、私の話を聞きながら、メモを取っていた方もいました。大学生である私の話をそこまで聞いてくれるとは本当に感動しました。そこで、私は人の話を真面目に聞くことが、話をしている人にどれほどいい気持ちにさせることができるかが、身を持って実感しまし

た。だから、これからはもっと、自分のコミュニケーション力を鍛えようと思っています。

もう一つ、強く印象に残ったことは、体験終了日に私のスピーチが終わった後、人事担当の方の話でした。「今回のインターンシップを通じて、曹君は山口松下電器産業がどんな会社なのか、どんな仕事をしているのかを理解していただいたと思う、それと同時に、会社側としては、この2週間を通して、今の大学生はどんな状態なのかをある程度まで把握することができました。そして、この2週間の体験で、山口松下電器産業に体験に来ている曹君が会社にとって、必要な人材なのかを判断することができました。最後に、山口松下電器産業に就職してみませんか」と誘われました。この話は、私に大事な事を教えてくれたのです。それはつまり、インターンシップを通じて、この会社が本当に

自分に合っているのか、自分がしたい仕事がこの会社にはあるのか、この会社なら長くいられるのかどうか分かると同時に、会社側は今の大学生がどんな状態なのか、我が社に就職する意思があるのか、やる気とか忍耐力があるのか、ちゃんとコミュニケーション力があるのかを常に見ているわけです。だから、インターンシップは本当にいい制度だと思いますので、このチャンスを絶対に逃さないでください。

人生は「自分が作者になって、自分自身の自伝を書いて売り出すようなものだ」と私は思います。自分の経験が多ければ多いほど、自伝にたくさんのことを書き込めて、自伝の内容が豊富になるのです。そうしたら、人々があなたの自伝に興味を持つようになり、買ってくれるのです。そして、あなたの経験から何かを得て、もっといっぱいの人が成功するのです。

あなたもきっと満足して、感動の日々に生きられるのだと私は思います。だから、これからは是非、いっぱい新しい経験をして、たくさんの人と交流をして、あなた自身の自伝を多彩にしてください。



「変わる」経済学部

中野 浩司
経済学部 4年
経済学科

私が山口大学に入学して、早いもので4年目となりました。この間に山口大学は「国立」から「国立大学法人」となり、新しいスタートを切る事になりました。我が経済学部でも、会計コースに力を入れたり、新たな学科を考えたりと、変化の兆しを見せています。これは、まさに少子高齢化に対応するための苦肉の策であり、決して不十分ではないにしろ、学生としては応援していかなければならないと考えています。

ところで、経済学部は、あまり役に立たないという印象を受けています。実際、理工系の学部に比

べると、就職に直結しないような授業もあり、学問的ではあるが、実践的ではないという印象をもたれるのは当然でしょう。そこで、現在では「会計」などの技術論的な授業を増やすことで、より実践的な授業の展開を目指しています。従って新たに入学してくる方々は、就職の時に、大いにアピールが出来ることでしょう。

しかし、それだけでは不十分です。もし技術だけを身に付けるならば、あえて「大学」である必要はなく、むしろそのようなノウハウは専門学校の方が持っているでしょうから、そこは専門学校に譲るべきです。従って、大学としては、技術論に付加価値を加えなければならないと思います。その

付加価値こそが、大学の牙城となるでしょう。その点に関しては、山口大学は非常に優れており、優秀な先生方が多いので心配はないと思います。

また、大学といえば、決して学ぶだけではなく、深い人間関係を築くチャンスがあります。経済学部では、2年次よりゼミナールに入り、自分の興味がある分野を深く学ぶだけでなく、ともに学ぶことで、新たな人間関係を築くことが出来ます。この出会いが人生の宝になるかもしれません。

最後に。経済学部には悪いところもたくさんあります。ただ、それについて真摯に取り組もうという先生方、職員の方々がいることも事実ですので、これからの経済学部は期待できると思います。

理 学 部

私の山大生活



阿部 由香里

理学部 1年
化学・地球科学科

大学の雰囲気

山口大学は総合大学ということもあり、とにかく広くて初めの1週間は教室を見つけるのに苦労して迷ってばかりの日々でした。山大は多くの木が生えており、中庭には猫が住みついていたいたりして、温かい雰囲気を持った大学です。また、大学周辺は緑に囲まれており、田舎ではありますが大学生が過ごすにはとてもいい環境であり、私は気に入っています。

理学部

理学部は数理科学科、自然情報科学科、化学・地球科学科にわかれてそれぞれの研究を行います。1年の私たちは専門的な研究はまだ行わず、専門科目、共通科目共に基礎的なことを学んでいます。私の学科では1年の後期から化学コースと地球科学コースにわかれて学ぶことになります。理学部は入学してすぐに合宿があるので友達もすぐにつくることができます。多数の教授や院生の先輩たちも参加するので、多くの人達と知り合うことができます。理学部自体の雰囲気も研究に専念できる雰囲気もあり、とてもいいと思います。

高校との違い

高校と大学の違いを三つあげるとすれば、まず一つ目は時間割が自分で作れるということです。大学では自分の好きな時間に好きな

科目を入れることができます。二つ目にあげられるのは授業時間の違いです。ほとんどの高校が45分～50分授業だと思いますが、大学では90分授業となります。私自身最初こそ長いと感じていましたが、今ではそう感じなくなりました。最後の三つ目にあげることは自分の時間がたくさんあるということです。この時間を利用してバイトに励んだり、サークル活動を楽しんだりすることができます。

これから

私が大学生になって数ヶ月が経ちました。高校のときに描いていた大学生活はまだ始まったばかりです。しかし、大学生活の1日はすごく短くて毎日が猛スピードで去っていくように思えてなりません。自分が本当にやりたいこと、研究したいことのために短い大学生活を十分楽しみたいと思います。



医学部

夢と仲間が集う場所



佐藤 大輔
医学部 1年
医学科

山口に来てから2ヵ月が過ぎ、新しい気候や土地にも少しずつ慣れてきました。

2ヵ月前に、はにかむ面持ちで顔を合わせた仲間たちも、今となつては毎日の生活に欠かせない大切な存在となっています。

その仲間たちと過ごす大学生活について、以下に簡単にではありますが紹介したいと思います。

切磋琢磨

私の入学した医学部には医学科と保健学科の二つの学科があり、保健学科はさらに看護学専攻と検査技術科学専攻に分かれています。

この学部に通して言えることの一つに、将来の自分の姿を見据えた人たちが多く集まっているということです。ですから、日常の講義はもちろんのこと課外での活動においても、同志間で刺激し合うことが多く互いに磨きあうことができています。

大学では、自らの姿勢が無くて

は何も得られない所だと言っても過言ではないと思います。学問に至っては、主体性が不可欠になります。私たちはまだ、専門の授業は始まっていませんが、教養においても主体性を失わないよう常に同志の間で刺激しあい、構えを維持しています。

医学部って どんなイメージですか？

次に課外活動について述べていきます。若干私の主観が入るかも知れませんが、この学部は本当に仲の良い明るい人たちの集まりだと思います。

とかく閉鎖的なイメージや、暗いイメージを抱かれがちなのが医学部の常のようです。しかし、この大学に入ってみて驚きました。他の学部と比較しても、医学部の方が圧倒的に楽しくワイワイやっ

ているという印象を受けているからです。これがこの学部に通して言えることの二つ目です。

特に部活動においては、ほとんどの学生が参加しており、日々強い心や体そして遊び心を養っているようです。まさに文武両道を実行している学部です。

そして天空へ…

私たちは医療従事者、研究者になりたいと思い集まった仲間です。1日1日の生活、講義や部活そして仲間と過ごす時間、私たちが自らが描く未来予想図に近づけると信じ過ごしています。先が見えているようで、見えていないからこそ同志の仲間が必要になると思います。こんな良い仲間恵まれた山口大学で、6年近くもキャンパスライフが出来ることを私は誇りに思っています。



工学部

いろいろなかたちで自分を表現すること



下野 晃裕

工学部 3年
機械工学科

ものづくり

工学部の醍醐味、すばらしいところは、“ものをつくる”ということに他ならないと思います。ものをつくるということは自分を表現する一つの方法であり、素晴らしいことであると考えます。

演習におけるものづくり

昨年から新たに開講された『ものづくり創成実習』では、‘グライダー模型製作’というテーマのもと、グループに分かれてグライダー製作に励みました。当時（昨年）ライト兄弟が動力飛行に成功してから100周年ということもあり、私の班は“ライトフライヤー”をグライダー模型として復元することに挑戦しました。グループで一つのものを考えるとき、いろいろな意見が出てくる中で、それをどうまとめるのかということ是非常に難しく、重要であると思います。幸いにも、私の班はうまくまとまっており、ようやく完成したときの喜びは大きく、単純に

完成したという喜びと、それに加えて、つくることにより自分たちがやったことを表現できたという喜びがあったように思います。

サークルにおけるものづくり

授業以外でも、インターンシップや部活動・サークル活動、アルバイトなど、自分を表現する機会は多くあります。これらの活動を通じて様々な人と接することは、大変おもしろく、自分が成長する材料になるはずです。実際に、私は体育会アメリカンフットボール

部に所属しており、部員はもちろん、OB・OGや他団体の方々と接することにより、得たものは数えきれないほどあり、それにより大きく成長できたように思います。

まだまだ言いたいことはありますが、これからの生活を有意義なものにするためには、現在の状態に満足することなく、積極的に自分を表現しアピールしていくことが必要なのだと思います。まさに、自分次第というわけなのです。



成 長

上村 恵巨

工学部
社会建設工学科

2002年9月、大学3年生の最後の全国選抜剣道大会が終わった。私はこのとき、本当の意味での感動を味わい、剣道の楽しさを感じた。斎藤先生のあの言葉も頭に過った。先生に試合を見て欲しかった。この試合は、一生の宝になるだろう。

今は亡き斎藤先生に出会ったのは、高校1年生の時。この頃はまだレギュラーに入れず、Aチームに入りたいと思いながらもその重圧に耐えられる自信はなかった。そんなとき、先生は私にAチームで試合に出場するチャンスを一度だけ与えてくださった。今でもそ

の時の先生の言葉は鮮明に覚えている。「上村、この試合はおまえにとって最後のチャンスだと思え。逃したらもうチャンスはないと思って戦ってみろ」と。私は興奮する気持ちと反面、緊張して何を考えて試合に望んだのか、どんな試合をしたのかも勝敗も覚えていない有り様。「こんなことでAチームに入れるわけがない。」先生の気持ちに伝えることが出来ないうまま、先生は事故で私の前からいなくなった。悔しくて、悔しくて、その分必死に練習に打ち込みました。その後、Aチームにも入れて試合にも勝つようになったけれど、試合で満足することはずっと出来ずにいました。

大学の剣道部に入部して初めて、今まで満足出来なかった理由

に気付いた。今までは先生が教えてくれるがままで、自分から追求する考えを持っていなかったからです。大学では、剣道をするのも辞めるのも強くなるのも弱くなるのもすべて自分自信の意志が決めることになる。だからこそ、自分から求めていかなければならない。

大学でのこの経験から、山口大学に興味を持っている高校生の皆様に伝えたいこと。それは、自分自信の心を磨き、新しい、輝く自分を見つけ出すのに山口という土地と大学という自由な空間は最適の場所です。自分から追求するのも、諦めるのもすべて自分に跳ね返ってくる、それが大学の魅力だと私は思います。



全国選抜中四国剣道大会優勝のとき(右が筆者)



農学部

獣医学科の学生生活



白尾 紘司
農学部獣医学科 6年
(獣医放射線学講座)

6年間の概略

獣医学科では、1年生の間は教養（共通教育）が多いです。しかし、専門の始まる2年生からは、午前中は講義で午後は実習（終了時間は未定・・・）という日々が続きます。ほぼ全ての専門科目が獣医師国家試験（6年生の3月にあり、これに合格しないと獣医師になれない）等にとって重要なため、必須科目であり、また農学部他学科とは共通学問分野も少ないため交流もほとんど無く、

同学科約30人の同級生のみと毎日、同じ机や動物に向かい一緒に学び交友を深めます。3年生の12月（正式には4年生の4月）からは、更に、各講座（研究室）へ数名ずつ所属し、臨床系の講座なら臨床を中心に、基礎・応用系なら研究を中心に、講座ごとで特色ある各分野に携わり専門性を深めることになります。

また、学科内で、新入生歓迎コンパや6年生追い出しコンパ（予餞会）、ソフトボール大会などがあり、各講座でも飲み会やキャンプ・スキーに行ったりする所もあります。

自分のこと・近況

同学科は多忙の為、世間でよく想像される学生らしい(?)キャンパスライフを送ることが困難な場合が多いですが、私個人は、吹奏楽部で全国大会出場したり、アルバイトで社会勉強したりと、遊び放題でした。

しかし無事?（成績は傷だらけながらも…反省）、6年生に進級した現在、臨床実習や患畜ケア（入院動物の世話）・卒論実験・就職活動etc多忙です。また一方で、教員免許（高校農業）取得の為、教育実習にも行きました。そんな中、先日、学科を中心に開催した「鳥インフルエンザと食の安心・安全」と題した公開シンポジウムの、情宣や裏方などに参加しました。一般に「獣医さん」といえば、犬猫のお医者さんを思い浮かべるかもしれませんが、公務員などとしてBSEなど人獣共通伝染病対策の最前線で働く衛生獣医さんも多くいらっしゃいます。私もそういった方面でヒトの役に立てればと思い、励んでいるところです。他にも学校や大動物臨床、研究分野、食品分野など、いろんな分野で「獣医師」は働いています。最後に…臨床の話を期待した皆さん、ごめんなさい。



■七夕祭・姫山祭実行委員会から

それはまさに青春でした

七夕祭

柏田 賢宣

七夕祭実行委員会
副委員長

皆様こんにちは、七夕祭実行委員会です。まずは、今回このような場で実行委員会のことをお話できることを感謝します。

祭りの運営という、一見めんどくさそうな立場の実行委員を我々がなぜこうも熱く楽しくやれるのかについてお話ししたいと思います。

実行委員会との出会い

実行委員をしていた人のうち、七夕祭の存在を入学する前から知っていた人は何人いたのでしょうか？おそらく、95%以上の人は知らなかったでしょう。

多くの実行委員は、たまたま入った寮で偶然七夕祭実行委員会に出会ったわけです。「楽しそう」「寮で知り合いを増やしたい」「暇だったから」、実行委員をやろうと思った理由は人それぞれでしょう。しかし、出会いなんてものは偶然の産物です。そして、この偶然の実行委員会との出会いを『これぞ運命!』と思った人達が熱い七夕祭を作り上げていくわけです。少なくとも2年目以降も実行委員を続けた人は七夕祭との出会い、実行委員の仲間との出会いに少なからず運命を感じていたはずです。運命です、運命。

実行委員会、その魅力

では、なぜ運命を感じるほど実行委員がおもしろいのかという本

題に入ろうと思います。指示された作業をこなした1年目、強く感じたのは仲間と作業する楽しさ、先輩達の偉大さ、そして、自分達のつくったもので多くの人が楽しんでくれる喜びでした。2年目以降になると、実際に七夕祭の運営の指揮をとっていくという立場上、1年目とはまた違った楽しみができてきます。新しいことを思いついたときの高揚感、今でも胸が高鳴ります。七夕祭をいいものにしようとするがゆえの周りとの衝突・葛藤、忘れません。後輩達をいかに率いていくか、といったことも重要になってきます。また、業者さんなど外部との関わりあいも増えます。そこで生まれるのが、周りに対する責任感です。そして、自分にかせられた責任・信頼から向上心と意欲が生まれます。「自分がいないと成り立たないんだ」、組織におけるこういった意識が全体の成功に結びつくのだと思います。また、こうした仕事の中、自分や他人の意外な一面、事務能力やカリスマ性を発見したりしました。これも醍醐味の

一つでしょう。

そしてこれらの面白みは、真剣にやったからこそ得られたものだと思います。

あとは・・・皆で遊ぶのはもちろん最高に楽しかったです。仕事をするだけの集団じゃありませんからね(笑)

経験こそは宝

大勢の人の前で話す、目上の人に対する礼儀作法、正しい酒の飲み方など、学生のうちにこれだけ多くのことを経験・習得できる機会はそうはないでしょう。きっと社会にでても役に立つものだと思います。なにより、自分にとって真剣に取り組んだものとして心に残りました。きっと生涯忘れません。なにかに新しいことをやってみるのは案外悪くないと思います。

最後に、今後も七夕祭が成功していくことを願います。

第33回七夕祭実行委員会

実行委員長

実行副委員長

楠橋 芳広
大柳 尚樹
柏田 賢宣
西村 肇



実行委員会委員長



七夕祭実行委員会(左端が筆者)



来たら絶対得をする！山口大学姫山祭!!

熊谷 芳子

大学祭実行委員会
委員長

11月6日(土)に山口大学大学祭：姫山祭を開催します。今年はテーマに『Laugh Away!』を掲げ、来場者の皆さんに日頃のストレスや嫌なことをこの姫山祭で全て笑い飛ばしていただけるようなものになればと願っています。現在、この姫山祭で予定している企画は、お尋ね者を探しながらスタンプを集める『WANTED』、無料でふく鍋を数量限定で配布す

る毎年恒例『ふく鍋奉行』、声援を送る側をもヒートアップさせるスポーツマッチなど盛りだくさんです。また、メインステージもオススメ企画満載です。ステージでは、自分の名前と身分証明があれば全員その場で参加できるちょっと特殊なビンゴ大会に、お笑いタレントによる爆笑ライブで盛り上がること間違いなしです！今年誰が来るのかはまだ秘密ですが、昨

年はあの有名な兄弟漫才コンビ：中川家を筆頭に全4組のタレントが山大に笑いの渦を巻き起こしました。

これ以外にもまだまだ計画中の企画もご用意しております。どうでしょう？姫山祭に少しでも興味を持っていたけたでしょうか？きっと今年の姫山祭からもう目が離せなくなってしまったはずです。皆さん是非お越し下さい。会場でお待ちしています。



寮生活から

男子寮

寮生活

波多野 哲也

教育学部 3年
自治会代表総務部長

あかの他人

私は山口大学吉田寮に住んでいます。もうかれこれ3年ほどになりますが、寮のいいところをたくさん理解しているつもりです。まず、寮には多種多様な人物が住んでいます。他学部の人間と知り合える機会というのはそうそうあるものではありませんし、生活を共にすることはその人物を知る上で非常に重要であり、わかりやすい手

段です。それに1年次から3年次までは二人部屋です。朝起きてから夜眠るまで、いわゆる他人である人物と生活を共にするということは端から見れば面倒で億劫なことも多いように思われがちかもしれませんが、慣れてしまえばなんということはありません。むしろ、興味深い経験になり得ると思います。

よき友人

寮には多様な人物が生活していると述べましたが、そのそれぞれの人物の特徴についてここで述べることは難しいのでやめておきますが、特に私が思うのは年齢の離れた先輩や後輩と知り合えるということです。それは直接的に社会に出てからも役立つ経験になると考えます。そして、多くの友人を作ることは大学生活を充実したも

のにしてくれています。

集団生活

吉田寮は自治寮です。年2回の寮生大会で寮生活に関するありとあらゆることを決めていきます。自分たちの生活を自分たちで律することはそれなりに難しいし、200人からなる寮生の意見をまとめることも容易ではありませんが、自分たちでものごとを決めるというのは充実感もあるし、一人一人の中に多かれ少なかれ責任感のようなものを持つこともできると思います。そのような経験が今後社会に出てから役立つのではないかと思います。

女子寮

榎野寮を語る

高山 友恵

教育学部 2年
榎野寮総務寮長

二人部屋

榎野寮は原則として二人部屋です。誰が相部屋になるかは、新入寮生全員にアンケートをとって、なるべく要望（学年、学部などの希望）を取り入れて総務が決定しています。見ず知らずの人といきなり同じ空間で生活することに、抵抗のある方もいるかもしれませんが、寮生の多くは相方（相部屋の人を寮ではこう呼んでいます）とそれぞ

れの形でうまくやっているようです。相方に限らず、寮にいたたくさんの寮生ととても近い距離で接することになります。新入生が「寮に来てよかった!」と言う大きな理由の一つに、多くの人と出会えることを挙げています。友達もできやすく、学業やその他生活全般において、お互い助け合えるのは寮の利点だと思います。

食事

新生活を始めるうえで、食事に関する不安があるという人は少ないと思います。榎野寮には朝、昼、夜の寮食があります。おいしくて、安くて（朝100円昼、夜それぞれ200円）、栄養士さんに栄養をしっかりと管理していただいている、文句なしの自慢の寮食です!

のんびりと

榎野寮は自治寮と言って、学生が運営している寮です。そのため細かい規則がなく、学生の自由がかなり保障されています。寮生活、という言葉から連想される厳しさはあまりありません。とはいえ共同生活の場ですから、最低限他人に迷惑をかけないためのルールは存在します。榎野寮はとてもしやすく、楽しい寮だと思っています。山大にオープンキャンパスに来られた際、よろしければ見学に来てみて下さい。お待ちしております!

■ 体育会・文化会代表者の声

大学と高校におけるサークル活動の違い

滝本 和也

体育会
バスケットボール部

高校でバスケットをしている人が大学でバスケ部に入部するかと言われたら半々くらいで部ではなくサークルの方へ行ってしまう。それは、大学では楽しさを求めるあまり、厳しい部へは入部しません。高校では、顧問の先生がいますが、大学ではない部が多いです。各部とも主将を中心に頑張っています。バスケ部は、週5日2～3時間程度練習しています。バスケットはジャージやユニフォーム、バッシュを買ったりと費用がかさんでしまい、バイトをしないと生活できなくなってしまう。

また、練習においては上下関係が厳しく、言葉使いにしても、敬語を目上の人に対して使わないといけません。それに浪人している人は年齢が上でも学年が下になってしまうので年下の人に対して敬語を使わなければなりません。初めは慣れないかもしれませんが、いずれ社会に出た時、部活動を通じて

礼儀や敬語の使い方など精神的・体力的に向上する所があり、サークルでは養えません。

練習やそれ以外でも自己管理をしないといけなくなってくるので、社会人となる前の人生勉強として部活動をする事をおすすめします。



サークル活動での義務と犠牲

道崎 淳一郎

体育会
ラグビー部

突然ですが、「サークルはきびしいか」と問われ、「きびしくない」と答える人はあまりいないのではないのでしょうか。少なくとも、自分は「きびしい」と答えます。

何がそのように答えさせるのか考えてみると、まずは、金銭的な問題が考えられます。部費、遠征費、コンパ費など、それぞれの金額は少なくとも、合計するとけっこうな額になります。しかし、こ

の歳になってまで、その支払い義務を誰かに頼むわけにもいきません。そこで、バイトをして稼がなければならないわけですが、それにより、時間の拘束を受けるといふ問題も発生します。自由な時間を犠牲にし、稼いだお金がサークルに消える。見事な悪循環です。

サークル活動とは、ここまで義務を負い、犠牲を払ってまでやることなのでしょうか。自分はやってみる価値はあると思います。なぜならば、言葉では表すことができないものを得て、人間的に成長したと思える自分がいるからです。

みなさんも一緒にやってみませんか？



充実したサークルライフを



松瀬 千秋

理学部 3年

2004年度山口大学文化会会長

2004年度文化会美術部副部長

サークルって?

山口大学には数え切れない程のサークルがあります。サークルと言っても分類分けすると、大学公認の「部」、「愛好会・同好会」、そして「非公認団体」に分かれています。近年では人付き合いが面倒、自分の時間が欲しいなどの理由でサークルに何も入らない学生も増えていますが、非常に勿体ないことに思えます。サークルとはある一点で同じ趣味、感性

を持った人達が集まり活動するところ。同じ共通点を持つ人どうしと一緒に活動して楽しくないわけがありません。サークルはキャンパスライフの大きな要素です。

勉学とサークルの両立

特に「部」は練習がキツイ、勉学と両立できるか不安、と牽制されがちです。

私は文化系の部が全て集まった文化会という組織の代表役をしているため、沢山の文化系サークルを見ていますが、心配せずとも勉学との両立は可能です。もちろん大学の中には練習の厳しい部もあるかもしれませんが、文化系の部はあまり厳しくはありません。どの部も週2、3回程度の活動なので勉学に支障はなく、試験前も活動は大抵行いませので安心してサークル活動が出来るようになっています。ただ、あまりにもサー

クルにのめり込みすぎて講義にも出ず1日中部室にいて、留年する人もいますが、そこは自己責任の問題です。

サークルライフ!

大学のサークル活動は中学、高校までの部活動とはまったく違います。あくまでもサークルは学生による運営の為、学生どうしが協力して活動をすることで、今までに経験がないくらいサークル員が親しくなります。一緒に同じ活動し、遊び、真剣に悩み、時には嫌になり、誰かが助けてくれたり、誰かを助けたり、時には酒を飲んでハメを外したりと、それは大学生活での大きな思い出になります。きっと一生に残る思い出になるでしょう。ぜひ大学に入るからには何かのサークルに入り、充実したサークルライフを過ごされることを期待します。



美術部の美術展開催中の批評会の1コマ



美術部の新歓用の立て看板作り

サークル活動は厳しいか？

藤井 まみ

経済学部 3年

2004年度山口大学文化会企画局長

2004年度山口大学文化会

マンドリンクラブ部長

始めに

「サークルは厳しいか？」という問いに対して、はっきりYesかNoか答えることは難しいです。「Yes寄りのNo」と言うのが最適かもしれません。

サークルによるのは確かですが、部活ではなく“サークル”なので、楽しいことが大部分を占めます。その中にちょびっと厳しいことがある、という感じですね。

私はマンドリンクラブという音楽系サークルに属していますが、そのサークルに沿って少し説明します。

通常練習

私たちのサークルは週3日間練

習を行います。年に3回行われる演奏会の為です。他サークルと比べても、そんなに多い方ではないと思います。ただ練習の雰囲気はいたって真面目です。重苦しい空気でやっているわけではなく、みんな丸となって曲作りに取組んでいるという、ちょっと熱い雰囲気です。それなりに練習が必要とされ、これが“ちょびっと厳しいこと”かもしれません。

練習以外の活動

もちろん練習ばかりしては息が詰まります。サークルには練習だけでなく、それ以外の活動もたくさんあります。これもサークルによって違いはあると思いますが、まずは新歓コンパがあり、新歓ハイクがあり、合宿があり、秋のレクリエーションがあり、クリスマス会があり……。その他諸々、細かい行事を挙げればキリ

がないくらいです。これが“大部分を占める楽しいこと”ですね。

終わりに

サークル活動をするとうるのですが、大学という場には、いろいろな人がいます。

先輩がいて、のちに後輩も入ってきます。いわゆる“小さな社会”というものができ上がります。それにおいて、人間関係の難しさ、また逆に楽しさや得るものなど、図り知れないものがたくさん存在してきます。そういうものも含めると、「サークルは厳しいか？」という問いに対しては、やっぱり「Yes寄りのNo」が答えかもしれないですね。

まずは体験してみること！これがこの問いに対する答えへの最短距離だと思います。



■ 学生生活なんでも相談

「学生生活なんでも相談窓口」とは？



郡司 修

学務部 学生支援課課長補佐

学務部学生支援課では、学生の皆さんの勉学から日常の生活まで様々な悩みに関して、気軽に相談できるように「学生生活なんでも相談窓口」を設けています。

相談の方法としては、学生支援課の相談窓口に直接訪問、E-mail、電話、手紙などがあります。また、保護者の方からの相談も受け付けています。

相談の内容については様々なものがあり、学習(就学)、進路・就職、心理(心の悩みなど)、家族・家庭、経済、生活一般、その他もろもろの相談に相談者の気持ちに沿って対応し、問題解決に努めています。

相談内容によって、この窓口で対応しきれない精神的な悩みなどの場合は、保健管理センター専任の医師、保健師、学生相談所のカウンセラーの先生への橋渡しをしたり、学習や転学部、転学科などの詳しい内容について各学部へ照会などしています。

相談内容Q&Aの紹介

それでは相談窓口で対応してい

ます内容のほんの一例を簡単に紹介します。

* Q：転学部・転学科はできるかどうか、どうすればよいですか。

A：希望する学部、学科により制度・方法がありますので問い合せ、回答します。

* Q：セミナーの勉強で他のゼミ生に合わせていけないし、先生からも叱咤激励されていますが深く落ち込み、悩んでいます。

A：学部と連絡を取り、心理相談をした方がよいと考え、まずカウンセリングを医師にしてもらい、医師、担当教授、指導の先生と話し合いをもち解決できるようにしています。

* Q：しつこい勧誘で新聞購読の契約をしてしまいましたが、その解約はできますか。

A：契約日を含め、8日間をはがきでクーリングオフ通知をすれば問題ありませんが、その期間が過ぎれば、その契約した販売店との話し合いが必要です。ただ、未成年の場合は期間が経過しても、親権者から取り消し通知ができます。

自分に必要がないと思えばはっきりと意志を示し、断ることを指導しています。

* Q：特定な思想団体からしつこく勧誘を受け、下宿まで来て研修合宿に参加するようにしつこく押しつけられ、怖くなったがどうしたらよいでしょうか。

A：団体に対する本人の気持ちを確認し、その団体の実体状況・状態を話した上で、今後絶対に会

わないこと、はっきりと自分の意志を示し、断ることを指導しています。

* Q：アルバイト先での交通費の支払いについて、自転車では交通費が出ないのでバス申請を出しなさいと言われてそのとおりにしたところ、後になって、実際の交通方法と違うとその会社から交通費の返還を求められ困っています。

A：大学から労働基準監督署に相談、マネージャーが了解の上、申請したものであるので会社の管理ミスと考えられ、返還の必要はないことを指導しています。

相談の解決への模索

このように事例を紹介しましたが、他にも様々な相談があります。また、相談者のプライバシー、秘密は当然のことですが、守られます。ただ、相談内容について、すべて解決できるわけではありませんが、カウンセラー、関係学部の先生、保健管理センターの先生や事務職員と連絡を取りながら助言やよりベターな解決について相談者とともに慎重に模索していきます。また、相談を通じ人間的な成長を図るとともに自立を促しながら適切なアドバイスをしますが、相談者自身も自ら解決しようとする努力も必要と思われます。



TOPICS

山口大学常盤総合研究棟竣工

■ 三浦 房紀 教授 副工学部長 工学部広報・社会活動・国際交流委員長

去る5月27日、山口大学常盤総合研究棟の完成を記念して、竣工記念式典・祝賀会が行われました。記念式典は新講義棟D11講義室において行われ、関係者約150人が参加、加藤学長式辞の後、文部科学省文教施設部山下企画官、山口県総務部末廣審議監、藤田宇部市長から祝辞をいただき、板野施設部長から施設概要説明がありました。

その後場所を総合研究棟(写真1)玄関に移し、テープカットが行われました。(写真2)テープカットに続いて、総合研究棟の見学会がありました。8階のラウンジからは常盤公園、宇部市の街並み、その向こうに周防灘が一望でき、そのパノラマに見学者一同、感嘆の声を上げておられました。(写真3)はそのほんの一部の常盤公園です。その後再び場所を移して祝賀会が、これも竣工後間もない福利厚生棟で催されました。三木工学部長の挨拶の後、和やかな雰囲気の中で総合研究棟の竣工を祝いました。



テープカットの様子 (写真2)

左から、三木工学部長、藤田宇部市長、末廣審議監、山下企画官、加藤学長、坂手副学長、松山事務局長

この総合研究棟は、地下1階、地上8階、延べ床面積7,170.17㎡で、既存の電気電子工学科棟、機械・社会建設工学科棟に隣接するトリプルタワーとして計画、外観は上品な小口タイル張りで、トリプルタワーとしての一体感が持たせてあります。その偉容は宇部市街地のほとんどどこからも望むことができます。



8階ラウンジから常盤公園を眺める (写真3)



総合研究棟正面 (写真1)

TOPICS

1階は、特別に立ち上げたプロジェクト研究のためのオープンラボラトリーが4室あり、ロビーは各種研究成果の展示場としても利用されます。2階は工学部附属ものづくり創成センターで、ものづくりを通じて学生の感性、創造性、独創性問題解決能力を育みます。この他特殊実験スペースとして、クラス10,000のクリーンルーム、高温高湿室、ドラフトチャンバーを完備した化学実験室などが整備され、最新鋭の研究環境が整っています。

しかし何と言っても本研究棟の一番の特色は、学内の研究者、学生が自由に研究できるオープンラボラトリーとなっていることでしょう。すでに本研究棟には様々な分野の研究室が入り、学際的、国際的な研究を始めています。たとえばメンテナンス工学研究分野（代表宮本文穂教授）では図1に示す世界各国との共同研究をすすめており、

今後も多くの国際ワークショップ、シンポジウムが予定されています。（写真4）はその一環で学生たちが研究している姿です。また（写真5）はなごやかな交流の一コマです。この他にも様々な国際的、学際的研究が進行中、あるいは企画されています。

このように本研究棟は充実した研究施設とゆとりの空間を兼ね備えた、山口大学の新たな「知の拠点」として、大いなる発展が期待されています。

連絡先

TEL 0836-85-9536

E-mail: miura@yamaguchi-u.ac.jp

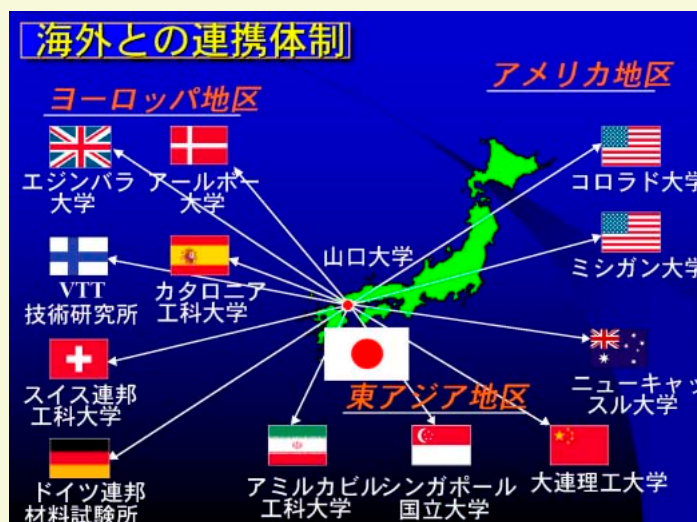


図1 メンテナンス工学研究分野の国際連携



研究室風景

(写真4)



国際交流の一コマ

(写真5)

TOPICS

2004年度文部科学大臣賞を受賞して

■ 田中 正吾 教授 工学部 電気電子工学科



文部科学大臣賞

受賞の対象になったのは、『光センサを用いたバージ積載土量自動計測システム』の開発です。本賞は、学術的に評価されるだけでなく、実用化され実際に社会で役立っている科学技術に対して贈られるものです。4月15日に虎ノ門パストラルホテルで授賞式がありました。河村文部科学大臣からはお祝いの御挨拶があり、夕刻の祝賀会では「山口大学は頑張っていますね。」というありがたいお言葉をかけて戴きました。日経新聞に掲載された全国大学ランキングで「山口大学:研究力13位」のことを指しているのだと思います。「私自身も更に社会に貢献するよう努力致します。」と御返事申し上げました。

システム開発の背景

今回の受賞のきっかけになったのは、1990年の関西国際空港の第1期埋め立て工事です。埋め立てに必要な土砂量は東京ドーム150杯分、バージ(運搬船)にして7万回ほど運ぶ膨大な量でありました。バージによる土砂の運搬に当たっては、空港島(人工島)を与えられた予算内で期限内に竣工させるため、バージ毎に積載土砂量の高速かつ正確な測定が不可欠であり、関西国際空港公団がそれを実現するシステムを公募しました。これに応募して、三菱重工グループと開発したのが上記の「バージ積載土量自動計測システム」です。バージの大きさは種々ありますが、大きいものでは、土砂積載スペースにして幅

20m、長さ150mもあります。これに、船底から、デッキ面上10数mの高さまで土砂を満載するわけですが、問題はこの体積をどのように計量するかです。従来は、4人位の人間が積載土の山に登り、時間をかけて三角測量し、その後、大雑把な計算式で土量を算定していました。そのため、測定誤差は8%前後、計測所用時間は40分位でした。また、雨が降ったり、風が強いなどの悪天候時や日没後は計測不可能でした。これは、土砂の中の石ころの大きいものは人の頭以上もあり、これらが積載土の山から転げ落ちることも多かったからです。更に、波や風の影響によりバージが揺れるため、従来の人に頼った計測方式では検査員が海中に落下するなどの生命の危険も伴い、計測システムの開発では、測定時間、測定精度もちろん重要ですが、人命のリスクを無くすることが最優先に考えられました。

計測システム

そこで、光センサを土砂落下用アーム(埠頭型システムの写真参照)の先端に取り付け、非接触で積載土面の形状データを(アームの動きに合わせ)リアルタイムに収集し、その後、積載土面の形状を2次元ガウス型関数の和で表現し体積を算出する計測システムを考案しました(埠頭型)。これによって解析的に土量が求まり、測定誤差は0.1~0.3パーセントに収まりました。しかも、計測時間はわずか30秒で済みます。多くの形状データから積載土体積(土量)を求める一連の知的な情報処理が、本システム開発のキープポイントでした。

開発したシステムとしては、埠頭型だけでなく、海上型もあります。この海上型は、海上に大きなゲートを構築し、バージがこのゲートをくぐるたびに、ゲートに設置した多数の光センサが積載土面の形状を一瞬のうちに把握し、積載土量の計測を行うものです。埠頭型、海上型ともに、波の影響で船が揺れますが、光センサにより得られるデータをどのように補正するかが、また工夫のしどころで、面白いところでした。本システムは、大型土木工事に対するインテリジェントな土量計測方式としては世界初ということで高い評価

TOPICS

を受け、当時、学術雑誌の表紙にも取り上げられました。

このシステムは、その後、関西国際空港第2期工事、諫早湾干拓工事、米軍岩国基地移設事業などで使用され、大規模工事になくはならないものになりました。また最近では、陸上でもダンプカーやベルトコンベヤーにも適用され、色々な分野で社会に役立っています。

研究の心構え

アンテナを張りめぐらし、人の行っている研究を全て学習するのは不可能です。量が多すぎて追いつけません。そのため、私はある時期までは先達の研究を参考にしながら知識を貯えましたが(若いときは止むを得ません)、ある時期からできるだけ自分の頭を使うことに専念するように致しました。これは、一見同じことをやっても、人間には個性があるため、必然的に方法論が異なってくるから

です。そこに“オリジナリティ”が醸成されると思います。ドイツの諺に『ワインの中に真実がある』と言うのがありますが、私は勝手に『現実の問題の中に研究のシーズ(本質)がある』と読み替えています。

これまで、研究者として信ずるところがあり、日本の科学技術の向上に少しでも寄与するため産学連携に取り組み、種々の計測システムを開発して参りましたが、これからも、人のやっている研究は気にせず、自分のやり方で走り、社会に貢献するつもりです。言うまでもなく、納税者である国民や社会に奉仕することが我々大学人の義務だからです。

連絡先

TEL.0836-85-9425 (内線9425)

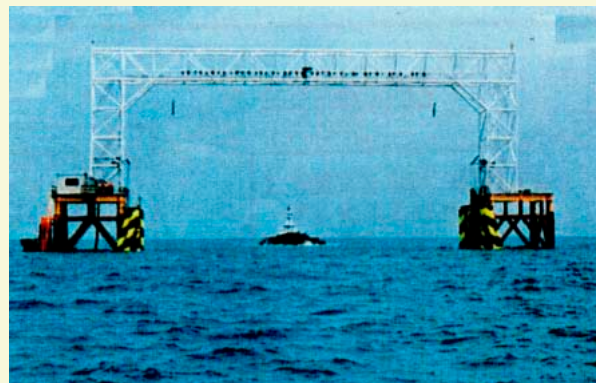
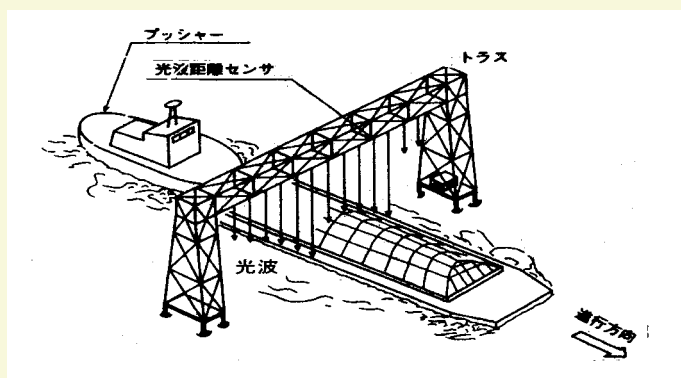
FAX.0836-85-9401

E-mail:tanaka@

sens.eee.yamaguchi-u.ac.jp



「光センサを用いたバージ積載土量自動計測システム」(埠頭型)
(アームの動きに合わせて土面形状データを自動採取し、土量を計測)



「光センサを用いたバージ積載土量自動計測システム」(海上型)
(光センサを多数取り付け付けたトラスの下をバージに通過させることにより、土面形状データを自動採取し、土量を計測)

TOPICS

日本デザイン学会研究奨励賞受賞にあたって

■ 坪郷 英彦 教授 人文学部 人文社会学科



究を続けろと後押しされたような気持ちになった次第です。現在は研究の力点をものから人あるいは社会に移していますが、フィールドを東アジアに広げ、変わらず日常の暮らしの中でのものと人の関係を考えていきたいと思います。

連絡先

TEL.083-933-5239

E-mail:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp

このたび日本デザイン学会より平成15年度学会研究奨励賞を頂きました。日本デザイン学会は産業デザインに関する研究を行う学術団体で、会員数は2000名にものぼります。賞は「竹籠の在来編組技術・意匠に関するデザイン文化研究」に対して与えられたもので、具体的には当学会に査読論文として提出し受理された3つの論文と長年の口頭発表が選考の対象となりました。

内容は旧武蔵国を範囲とし、その大部分の地域で行われていた畑作とそのための生産用具として使用された竹籠の関係性を明らかにしていったものです。結果として、仕事と用具の不即不離の関係、農閑余業として行われた器用仕事の重要性を明らかにしました。さらに提言として器用仕事の再評価と器用仕事が伝承される場の重要性を示しました。

私は大学時代からデザインを学んだのですが、時代の先端を行くデザイン(もの)ではなく、日常の暮らしの中で生み出されたデザイン(もの)をその作り手である職人と使い手の両方について継続して調査研究してきました。方法としては文化人類学的な参与観察による長い時間をかけたものになります。受賞理由も綿密な資料採取と解析を行った長期にわたる実証的研究であり、長年の労が評価されたと考えています。

ところで、受賞後行った私の記念講演を聞いた若い研究者が、提言である器用仕事に注目することやその場の重要性に関心を示してくれたことは思わぬ事でした。身体性を伴う技能伝承に関心を持つ人が高度なシステム構築の現場にも少なからずいるということであり、もっと研



TOPICS

ゲーテ賞を受賞して

■ 坂本 貴志 講師 人文学部言語文化学科



去る6月4日、日本大学文理学部百周年記念館における日本ゲーテ協会総会に際して、「日本ゲーテ賞」を受賞しました。

社団法人日本ゲーテ協会は、昭和6年に創設され、ドイツ文学と文化の研究・紹介を目的に活動している学術団体です。研究論集である「ゲーテ年鑑」を毎年刊行するほか、「ゲーテ生誕の夕べ」等の文化シンポジウムを開催しています。この協会が、「日本におけるドイツ文学・ドイツ文化の研究および理解の促進」のために、45歳以下の研究者を対象として、毎年懸賞論文を募集しています。

受賞論文『ヴァレンシュタインの崇高』は、18世紀ドイツの劇作家フリードリヒ・シラー（ベートーヴェン「第九」の歌詞の作者です）の三部作悲劇『ヴァレンシュタイン』（1800年）を、美学概念の「崇高」を鍵にして論じたものです。古代ギリシア悲劇以来のテーゼである、悲劇と共同体との根源的な関わりを、フランス革命を背景に持つヨーロッパの転換期に生まれた悲劇においてあらためて問い直し、シラーの近代悲劇が人間と社会とに対して持った革命的な意味を分析したものです。今回の論文にある問題意識はまた、18世紀的な啓蒙主義の理想が、現代の我々の生きる世界史的な変革の時代に対して、どのような新しい可能性を提示しうるか、という問いへとつながっています。

私事を述べれば、東大独文科のかつての恩師柴田翔

先生が、ゲーテ賞と芥川賞を同時に受賞されたと伺って以来、この賞はひとつの目標だったので、今回とても光栄に感じています。研究のさらなる発展を心中に期しつつ、この場をお借りして、山口大学における先輩、友人の同僚諸氏には、常に変わらぬご厚誼、ご指導、ご鞭撻に対し、心から感謝の意を表明致したく存じます。

連絡先

TEL&FAX.083-933-5285

E-mail:ts@yamaguchi-u.ac.jp



TOPICS

シンボルマーク決定!山口大学知的財産本部

■ 加納 好昭 知的財産本部 ディレクター

背景と目的

山口大学知的財産本部では、山口大学のシンボルマークに知的財産本部のシンボルマークを併記して、知的財産関係のパンフレットやセミナー等に活用することで、山口大学の知的財産本部としての活動を広く知って頂けるようにしたいと考えております。

選考方法

そこで、山口大学が今年の4月1日から国立大学法人山口大学になったのを期して、昨年学内に新設されました知的財産本部に相応しい“シンボルマーク”を、学内の教職員ならびに学生の方々から、広く募集しました。その結果、20点の作品が寄せられましたが、その中から、最優秀作品を1点、優秀作品を1点、学長、副学長始め審査員の方々に、知的財産本部に相応しい作品を上位2つ選考して頂きました。

選考結果

その結果、1位の最優秀作品には工学部社会建設工学科の河元信幸さんの作品(得点36点)に、2位の優秀作品には知的財産本部の吉田弘美さんの作品(得点12点)にそれぞれ決定しました。尚、採用されたシンボルマークの著作権および商標登録出願権は、賞品と引き換えに山口大学に承継させて頂くことで了承願いました。最優秀作品1点と優秀作品1点については、5月12日に学長より表彰して頂きましたが、決定したシンボルマークと併せて、学長表彰の写真を示します。

シンボルマークの意味

河元さんによりますと、シンボルマークにシンボライズされている意味(図案の説明)は、知的財産本部の英語読み(Intellectual Property Center)から、「I」、「P」、「C」を図案化、「P」と「C」で輪を作り、地球を表しました。そして、その中に「I」を重ね、世界に伸びるという意味を含め、斜めにデザインすることで、斬新さ(知的財産)をイメージさせます。シンボルカラーは山口大学のシンボルカラーを用いることで、山口大学と連携することを意味します。

受賞の感想

また、河元さんは、「この度は、このような賞を頂き誠にありがとうございました。このシンボルマークの特徴は、知的財産本部が山口大学と連携・協調することをコンセプトにデザインいたしました。それが評価され受賞できたことは大変うれしく思います。本当にありがとうございました。」と受賞の感想を述べられました。

連絡先

TEL : 0836-85-9966 FAX : 0836-85-9967
E-mail : ykanoh@yamaguchi-u.ac.jp

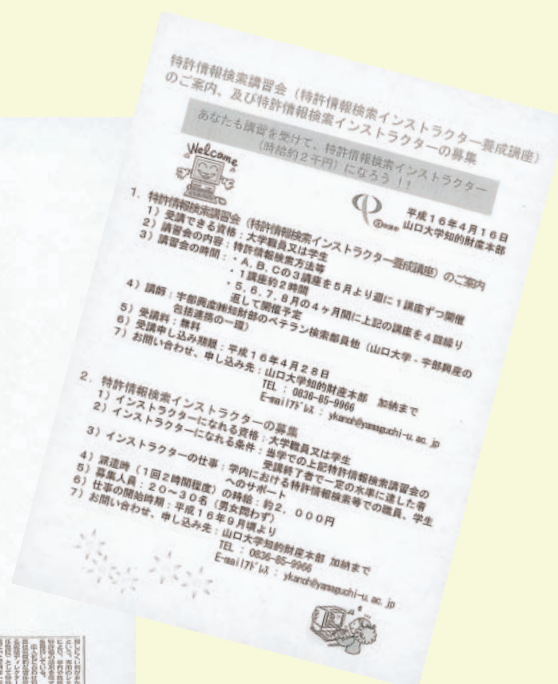
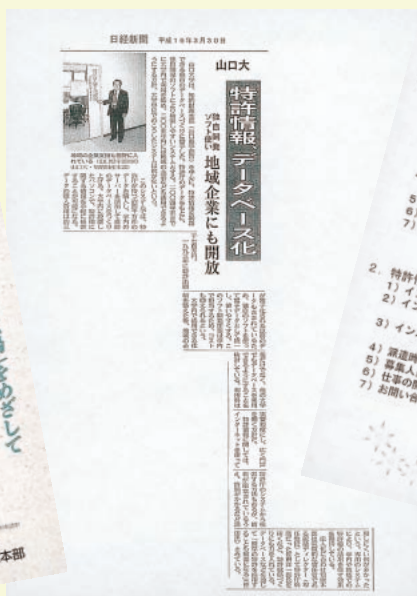
TOPICS



決定した知的財産本部
シンボルマーク（河元さんの作品）



学長表彰
（右より、河元さん、加藤学長、吉田さん、佐田知財本部教授）



私の研究

あなたは映画を見たことがありますか？



堀家 敬嗣 講師

教育学部 総合文化教育課程 文芸・芸能コース

かつて日本では、映画が最大の娯楽として機能していた時代がありました。それは上映時間90分というほんの束の間、映画館の暗闇の中で銀幕のうえに明滅する光と館内に鳴り響く音に耳目を凝らし、その向こう側にある物語に没入することによって、味気なく繰り返される凡庸で退屈な日常生活からわたしたちの心身を解き放つ夢の世界であり、非日常的なこの夢を見るために、週末ともなれば誰もが心弾ませて映画館へと足を運んだわけでした。

けれど今となっては映画は、あなたもご存知のように、もはや最大の娯楽などではありません。それどころか、ある一定の類いの映画については、自らが娯楽であることをむしろ積極的に放棄していると思しきものさえあります。それはなぜでしょうか？

今日わたしたちのまわりには、凡庸で退屈な日常生活が繰り返す味気なさをまぎらわせ、そこから目を背けるためにあてがわれたじつにたくさんの娯楽があふれ、ひとつに飽きたら次のもの、これに飽きたらまた次のものへと、わたしたちは気分次第でいくらかでもそうした娯楽を乗り換えていくことができます。

事実、日本でも娯楽産業としての映画業界の衰

退は、テレビ受像機の普及にともなって生じたといわれています。居間にテレビ受像機が1台あれば、わざわざ上映時間を見計らい電車やバスに乗って繁華街の映画館まで足を運ばなくてもいいし、だいいち多彩な番組を無料で視聴することができます。どうせお金を払って電車やバスに乗り、せっかく繁華街まで出かけていくなれば、かつては映画を見るために払ってきたけっして安くもない入場料は、もっと別のどこか、たとえば遊園地や野球場の入場料として、あるいは入場無料のデパートで買い物したり食事をしたり、その帰りにカラオケに寄ったりエステにいったり、などと、さまざまな気晴らしの対価として有効に使えるわけです。

そして今やテレビもまた、ビデオやゲーム、インターネット等、次々と現われる新しい娯楽にたちまちその座を脅かされ、わたしたち受け手の気まぐれな興味を惹きつけるために躍起にならずにはいられないのです。

今日のわたしたちをとりまくそうした環境の変化は、娯楽産業としての映画業界を衰退させるその一方で、映画を娯楽とは別の次元へ否応なく導こうとしています。そしてその過程で、ある一定の類いの映画については、自らが娯楽であることをむしろ積極的に放棄しはじめたのです。つまりこれは、今日の映画が、わたしたちのまわりで絶えず変化する環境に自らを照らし合わせて、そこに自らが存在するその理由を問いなおした結果であるといえます。

では、自らがもはや単なる娯楽のひとつにすぎないという事実耐えきれなくなった映画が、自らの存在理由を新たに見出すべく娯楽たることを放棄したその先に、映画はいったいなにを見たのでしょうか？

映画が娯楽としての社会的な機能を放棄すること、すなわちそれは、凡庸で退屈な日常生活に倦み疲れたわたしたちの心身を束の間この味気ない繰り返しから解き放つような、非日常的な夢の世界の放棄に違いありません。そうした気晴らしは今やディズニーランドにまかせておけばよいのだし、せいぜいのところディズニー映画の類いがもっぱらその機能を担ってさえいれば、映画にとっては社会から期待されるこの役割りをそれで十分果たせるのですから。

その一方で、夢の世界を放棄することを積極的に選択した別の類いの映画は、わたしたちのものである現実の世界と直面することになります。映画の上映が終わって夢のまどろみから覚め、映画館の扉を押し開けて寛ぎなまった足を暗闇の外に一步踏み出すやいなや、まとわりつくように湿りそぼる梅雨の生ぬるい匂いやらかさつく晩秋を軽やかに滑走する木枯らしの冴えた潔さやらとともに、あんなにも雑駁とした街の喧騒のかたまりがわたしたちの耳目にいきなり飛び込んできて、そんなときわたしたちは耳目はおろか全身全霊でこれをまるごと受け止めるよりほかなないように、夢の世界を放棄した映画もまた、わたしたちの凡庸で退屈な日常生活からけっして目を背けることなく、それが繰り返す味気なさをただただひたすら直視せざるをえません。

これまでわたしたちが凡庸なものとして目を背けてきた現実の輝き、あるいはやはり退屈なものとして耳をふさいできた現実の響きは、映画に捉えられることによって始めて、それ自体としてわたしたちの耳目に届きます。映画は、わたした

ちの日常生活の凡庸さや退屈さに埋もれてそれまで看過されてきた、ある貴重で特別な、かけがえない瞬間を暗闇のなかに浮かびあがらせ、これをわたしたちの耳目に向けて晒します。そのうえで、日常生活の凡庸さ、退屈さの味気ない繰り返しそのものを肯定しはじめます。

そのような映画に不意打ちされたわたしたちに対して、事態はにわかに反転し、今度は現実の世界こそが映画そのものに見えてくるでしょう。要するに、凡庸で退屈なのは日常生活ではなくわたしたちの耳目だったのであり、またそのようなものとして日常生活を味気なく繰り返してきたのもやはり、じつのところわたしたち自身だったわけです。ここにいたってはじめてあなたは気づきます。あなたのまわりのこの現実＝世界はすべからく映画的な瞬間の同語反復にほかならないことに。

わたしが研究しているのはそうしたことです。

学内連絡先

TEL: 083-933-5408

E-mail: horike@yamaguchi-u.ac.jp



「大きなテーブルのあるカフェ」

やまだ みつえ

山田 光恵 作

平成15年度 教育学部学校教育教員養成
課程教科教育コース美術教育選修 卒業
現在、京都教育大学研究生

私の授業

会計教育について



山下 訓 助教授
経済学部経営学科

職業会計人コースが始まりました

2004年4月に職業会計人コースを経済学部で開設しました。この職業会計人コースは公認会計士や税理士など会計の資格取得を目指すものです。山口は勉強に最適な小都市ですが、資格試験などの勉強には不便な面もあります。そこで、資格試験に近い科目も一部卒業単位に認めるようにし、正規の授業の範囲外ではありますが、資格試験対策科目も構内で受講できるようにしました。また、学生諸君が議論しながら、同時にノートパソコンを持ち込んで勉強できるグループ学習室が無いことに気づき、C305教室整備もお願いしました。また、このような仕組みは国立大学法人では初めてなので、不明な点は経済学部学務係（083-933-5506）に気軽に相談してください。

会計教育で大事なこと

私は学部では簿記1・2・3や会計学演習（ゼミ）、大学院では会計学を教えています。更に今年度からは大学院では英語での授業も担当しています。

1) 企業全体把握と企業制御

ところで、会計関連の資格の話をしてきましたが、会計の役割とは何でしょう。もちろん、会計と会計学はどう違うのだろうか、economyの学問名はeconomicsだけど、accountingにはどうしてaccountingicsが何故無いのだろうか、会計学と経営

学とはどこが違うのだろうか、など解決していない疑問は尽きませんが、とりあえず、会計の役割は企業全体把握と企業制御あたりにあるのではないかと私は考えています。

企業全体を把握することとは、一目で経営状況が分かること、全体管理です。その有効な手段が簿記です。経営者も投資家も結局いくらお金があるの、どんな経営資源があるの、いくら借金があるの、などを簡単に把握する必要があります。また、2004年3月のトヨタの最終利益は1兆1620億円にもなりました。日本政府の税収約44兆円程度とすると、仮に実効税率40%とするとトヨタ一社で約5000億円(11620*0.4)の税金を支払うことになります。トヨタ一社で日本全体の税金1%以上を納めている計算になります。このような巨大企業を制御する方法の一つが会計の役割ではないかと考えています。

以上の二つの観点から簿記や会計学の講義を行っています。

2) 倫理教育

さらに、2002年のエンロン事件以降、アメリカでは、企業会計で作成される財務諸表に、「絶対的な真実性」を求めるようになりました。これは会計において、大きな転換点になる可能性があります。今までの会計では要求されなかった水準まで、経営者に対して記録の正確性を求めています。おそらく、企業トップの不正はなかなかチェックできない、ということがもう放置できなくなったのでしょうか。その点を踏まえ、倫理の重要性を授業で話しています。

3) 世界の一員

会計学演習（ゼミ）では、学部で会計学を専攻した外国人留学生の協力も得て、毎回30分程度、英語での会計学の講義を導入し始めました。こう書くと英語によほど自信があるように聞こえるかもしれませんが、私のはひどいものです。道具として、どうにか伝わればいいと割り切っています。EU統合でも英語が共通語であるのを見ても、国際会計基準の導入を見ても、どんなに拙くても英語で自分の学んだことを発信しなければいけない時代になったと考え、会計学を英語で学ばせることを始めました。

学内連絡先

TEL&FAX:083-933-5518

E-mail:yamasita@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

教員から寄せられた著書

三浦典子著『企業の社会貢献とコミュニティ』

(ミネルヴァ書房、2004年5月) ￥4,200



表紙カバーの写真は、いずれも本書の中で扱われた、企業組織と地域社会のかかわりを示すひとこまである。

400年以上にわたって陶磁器を生産し続けてきた町「佐賀県有田町の町並み」、地場の炭鉱会社を発展させて宇部興産を築いた渡辺祐策を記念した「宇部市の渡辺翁記念会館」、防府市に進出した最新鋭の機械を擁する自動車組み立て「マツダ防府工場」、企業が率先して始めた「愛情防府フリーマーケット」写真である。

本書は、文部科学省の科学研究費の助成を受けて、西日本各地において、人文学部社会学研究室の学生たちの協力を得て行った、10年間に及ぶ「産業都市における企業の社会貢献活動とコミュニティの創造」に関する調査研究の集大成である。

地域社会に立地する企業も地域社会の一市民であるという「企業市民性」の視点で、企業の社会貢献活動と市民の活動との呼応によって、新たなコミュニティが創出されていく姿を描き出した。

(人文学部教授 小谷典子 ペンネーム 三浦典子)

otani@yamaguchi-u.ac.jp



「和が漂うカフェ」

やまだ みつえ

山田 光恵 作

平成15年度 教育学部学校教育教員養成
課程教科教育コース美術教育選修 卒業
現在、京都教育大学研究生



発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場

山口大学公開講座

平成16年度受講生募集のご案内



お申し込み・お問い合わせ

山口大学エクステンションセンター

〒753-8511 山口市吉田1677-1

TEL(083)933-5150

FAX(083)933-5154

E-mail:kyoutu@yamaguchi-u.ac.jp

お申し込み方法

- ・①講座名②名前（フリガナ）③年齢④住所⑤職業を明記の上、郵送・電話・FAX・Eメールでお申し込みください。
- ・受付け後、振込み用紙をお送りいたしますので、受講料をお振込みください。振込みの確認後、受講証を送付いたします。
- ・受け付けは先着順で、定員になり次第、締め切ります。

主催：国立大学法人山口大学 エクステンションセンター

詳細は裏面をご覧ください（平成16年度公開講座一覧）

エクステンションセンターのホームページ <http://www.ext.yamaguchi-u.ac.jp/>

平成16年度公開講座のお知らせ

小麦栽培から始めるパンづくり 後援:県農業試験場	市民一般	6/2, 8/25, 11/10	10:00～15:00
女性のためのナイト・カレッジ (いきいき健やかライフのための健康講座)	宇部近郊に在住する女性	7/6～8/3 (毎週火曜 計5回)	18:30～20:00
理科実験講座	小・中学校 教員	8/9～8/10	9:00～16:00
木工入門	市民一般	8/20～8/22	8:30～12:30
中高年の健康講座	市民一般	9/1～12/25 (計7回)	19:00～20:30
ヒューマン・スクール 衣・食・住 ～暮らしと文化～	市民一般	9/29, 10/13, 27, 11/10, 24, 12/8	13:30～15:00
経済学部創立100周年記念 21世紀の経済・社会を展望する	市民一般	10/12～11/16 (毎週火曜 計6回)	18:30～20:00
やまぐちサタデー・カレッジ2004 異文化交流コース 「古代中国を読む 甲骨文・金文・木簡・竹簡・伝来文献」	市民一般 学生	10/9, 23, 11/6, 20	14:00～15:30 15:40～17:00
やまぐちサタデー・カレッジ2004 現代文化コース 「哲学の思考実験」	市民一般 学生	10/9～11/27 (毎週土曜 計8回)	14:00～15:30
やまぐちサタデー・カレッジ2004 外国語学習コース(韓国語) 「韓国語初歩の初歩」	市民一般 学生	10/9, 23, 11/6, 20 11/27, 12/4, 11, 25	15:40～17:10
中高年の健康づくりのための運動指導 講座	地域で中高年者を対象に運動指導を行っている方	11/6～11/7	13:00～16:00

今年度は上記**18講座**を予定しております。

詳細については、お気軽に下記までお問い合わせ下さい。(HPにも随時情報を掲載いたします)

〒753-8511 山口市大字吉田1677-1

国立大学法人山口大学 エクステンションセンター

電話 083-933-5150



新聞掲載された山大・地域から見た山大

5月

- ◆体育会創設50年 学生やOB祝う ー山口大ー (朝日・山口:3日)
- ◆鳥インフルエンザ教訓学ぼう (サンデー山口・読売:7日)
- ◆皆既月食観測山口でも撮影 ー大学教員・櫻田さん (朝日:7日)
- ◆山大教授ら5人病院経営語る 経済学部100周年記念で公開講座 (山口:9日)
- ◆国際協力銀と協定 ー山口大ー 海外経済事業、効果的に (山口・毎日・日経:8日)
- ◆“白衣の天使”とふれあう ー山大病院で看護の日行事ー 初のナイチンゲール展も (宇部日報:8日)
- ◆壮大な演奏で魅了 山口大と医・工学部管弦楽団 (宇部日報:10日)
- ◆東会長を再選 ー霜に会ー 医学発展などに一丸 (宇部日報:11日)
- ◆新エネテーマに山大が公開講座 ー受講生募集ー (宇部日報:12日)
- ◆来月6日、街なか大学 ー山口ー 広中学長(元山大学長)と自由に語ろう (山口:18・日読売:25日)
- ◆「少子化社会の法と経済」講座 ー山大で来月からー (山口:19日)
- ◆児童と教員志望大学生 一緒に手で田植え ー阿東で出雲小と山大 (山口:20日)
- ◆山大がパンづくり講座 小麦栽培から、参加者募集 (山口:20日)
- ◆山口大工学部 “知の拠点”誕生 すでに4研究がスタート ー27日に完工式 (宇部日報:20日)
- ◆山大的TLO 特許料2000万円突破 「地方大学では初めて」 (朝日:21日)
- ◆山大がスペシャリスト育成へ 「観光学科」を新設 来年度にも 旧国立大では初めて (朝日:22日・山口:27日、宇部:29日、毎日:6月8日)
- ◆「地震時に逃げ込め」と言われるが…… 竹林の過大評価は禁物 「繁殖土壌は比較的軟弱」 山大工学部の山本教授が調査 (宇部日報・山口・毎日:26日)
- ◆ふるさと新生 第二部 健康づくり 女性のための医療拠点 高ニーズの山口大専用外来 (宇部日報:27日)
- ◆鈴木助教授ら受賞 宇部興産財団が援助金 (宇部日報:27日)
- ◆C型肝炎を考える公開講座 最新の治療法説明 ー山口市ー (毎日:31日)
- ◆ベンチャー企業「大学発」03年度で799社 経産省まとめ 九州・山口でも増加中 (朝日:29日)
- ◆学術研究の成果期待 常盤総合研究棟の完成祝う (宇部:29日)

6月

- ◆地域社会とともに 国立大学法人山口大学 (読売新聞広告:5日)
- ◆受け入れ「300人まで」 ー山口大の留学生ー 宿舍が足りず苦悩 (朝日:9日)
- ◆知的財産活用 後押しに動く ー中国リポートー 宇部、地域産業底上げへ 市、産学の特許出願助成 山口大、データベースづくり (日経:16日)
- ◆包括的高大連携へ 県教委との協定検討 (山口:23日)
- ◆山大と宇部高単位認定協定 県内では4例目 (山口:23日)
- ◆技術者経営を指南 中小向けセミナーで連携 (日経:24日)
- ◆きょうとあす 山大演劇部公演 (山口:25日)
- ◆山大で七夕祭 3日 北海道旅行も当たる!! (サンデー山口:27日)
- ◆ひろばの声 後世に伝えたい大学者 寺田寅彦 山大工学部の山本教授 (高知新聞:27日)



編集後記

今回は高校生の皆さんを対象とした特集号です。大学は学問の扉を開く場でもあり、将来の進路を考える場でもあり、さらに大切な自らの生き方を考える場でもあります。その様子を「大学はやっぱり面白い」のテーマで、山口大学の学生自身に語ってもらいました。勉学・生活・サークル活動等での学生の元気な姿を高校生の皆さんへ伝えることが出来ればとの企画意図です。より大学が身近なものと感じられるようになるでしょう。

新生山口大学では広報の進め方を検討し、ホームページの充実に力を入れていく方針をとります。一方で地域やOB、高校生など受け取るメディアを特定できない人々には、親しみがあがり、いつでも開ける印刷物の形式で大学の活動を伝えていきます。その考えのもとに当分の間、YUインフォメーションを年4回の発行に減らすこととなりました。より内容が充実された誌面を作り続けますので、ご期待下さい。

(坪郷英彦)

©山口大学ホームページ<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口大学広報第七十二号

平成十六年七月二十一日発行

編集発行 山口大学広報戦略委員会

(総務部総務課)

住所 山口市大字吉田一六七七一

電話 (083) 933-5007

FAX (083) 933-5013

E-mail : SHO11@office.cc.yamaguchi-u.ac.jp

印刷 有限会社三共印刷

広報戦略委員会委員

大坂 英雄 (企画広報担当副学長)

小谷 典子 (人文学部 広報担当副学長補佐)

坪郷 英彦 (人文学部)

杉山 緑 (教育学部)

藤井 大司郎 (経済学部)

君波 和雄 (理学部)

武藤 正彦 (医学部)

溝田 忠人 (工学部)

山田 守 (農学部)

長畑 実 (大学教育機構)

瀧本 浩一 (産学公連携・創業支援機構)

糸長 雅弘 (学術情報機構)

杉井 学 (学術情報機構)

國守 勝巳 (事務局)

仁科 幸雄 (事務局)